



TOYAMA
Prefectural
University

富山県立大学ニュース

平成24年3月発行
富山県立大学学生委員会

NO.94

第22回 県大祭



CONTENTS

- 退職にあたり
- News Digest
- 研究紹介
- 学生レポート
- INFORMATION など



退職にあたり

教養教育

准教授 鈴木 敏彦

昭和48年4月に富山県立大学の前身である富山県立技術短期大学草農業科の助手として採用された。その後、学科名の変更、工学部の開設に伴い、短期大学部農業技術学科生物生産専攻へと変遷し、平成18年に生物生産学科の廃止に伴い工学部に移り、教養教育・生物学担当として勤め、この春定年を迎えることとなった。

研究面では学生時代以来の「鳥類尾腺の形態学的研究」という基礎的研究を行ってきた。その研究成果は直接世の中に役立つものではなく、この成果を基として実用性のある研究につながっていくことを期待しての研究姿勢で行ってきた。このような研究をこれまでずっと続けることを許してもらえた大学環境に感謝している。

勤め始めてから、この春で39年間過ごしたことになる。この間、教育、研究を通して多くの学生と接し、そのことを思うと感慨深いものがある。先日来より、身の整理を行って

いるが、つい思い出に浸り、なかなか処理が進まない。これまでに集まったいろいろな資料を思い切って捨てるのだが、何か寂しい気持ちになるのは、これまでに私と同じように定年を迎えた方々も同じではなかったのではないかと思います。

この39年間の間、本大学内だけではなく、多くの方々のご支援のおかげで何とかこの定年を迎えることができた。特に研究面では多くの他大学の人にお世話になり、人と人とのつながりがいかに大切なことであるかということ学んだ。

4月からは何をしておいたらいいのか、今のところ、何も思いつかない。これまで仕事一筋というわけでもなく中途半端な過ごし方をして来たため、趣味というもの、また何かスポーツをして来たこともないので、まずは余生の過ごし方を考えてみることから始めてみようと思う。

最後にこの富山県立大学の今後のますますの発展を祈って退職の辞と致します。



本学教員の受賞について



機械システム工学科 石塚 勝 教授

日本機械学会熱工学部門「技術功績賞」 H23.10.29受賞

<研究の概要等>

国内外の熱工学技術、とりわけ電子機器の冷却技術、熱対策技術や熱設計技術などの分野における発展に貢献した功績が顕著であることから受賞したものです。

日本伝熱学会「日本伝熱学会功労賞」 H23.11.26受賞

<研究の概要等>

伝熱学の発展並びに日本伝熱学会の発展に多大の貢献をしたことから受賞したものです。

本学学生の受賞について

本学学生が次のとおり各学会賞等を受賞しました。

受賞者	学科等	学会賞名／資格試験名
森 慧	博士前期課程知能デザイン工学専攻1年	電気学会 電子・情報・システム部門 優秀ポスター賞
大数 勇希	博士前期課程知能デザイン工学専攻1年	電気学会 電子・情報・システム部門 優秀ポスター賞

東日本大震災ボランティアへ本学学生が参加

平成23年8月から9月にかけて、環境工学科を中心に本学から9名の学生が東日本大震災の災害救援ボランティアに参加しました。これは、県、県社会福祉協議会、富山県民ボランティア総合支援センターが連携し、派遣を行ったものです。学生は岩手県陸前高田市へそれぞれ5日間派遣され、土砂や瓦礫の撤去などを行いました。

【ボランティアに参加した学生の感想（環境工学科3年 渋谷 洋平さん）】

私は平成23年9月8日～9月10日に陸前高田市の広田町でボランティア活動を行いました。活動内容は、主に瓦礫の分別や草刈りを行いました。宿舎からまずバスでボランティアセンターに行き、広田町に行ったのですが、海に近くなるにつれて建物の倒壊した瓦礫が多くなりはじめ、とても驚きました。バスの中からは一本松を見ることができ、あれだけの津波が来たわけなのになぜ流されなかったのか不思議に思いました。活動中、瓦礫の中から持ち主の思い出の品だと思われるものが発見した時はとても悲しい気持ちになりました。依頼者の方は私たち富山県から来たボランティア団体にとってもやさしく話かけてくれました。あのようなつらい経験をしたことを思うと、私たちもつらくなりましたし、やさしくしてくれた依頼者の思いやりを感じました。また、日がたつにつれ、私たちのチームワークもよくなり、みんなで一つのことをする大切さを改めて感じました。最後に、今回3日間という短い期間で大きな範囲の瓦礫の分別ができなかったため、機会があればまたボランティア活動に参加したいと思いました。



大学・短大・高専合同紹介フェスティバル

10月9日(日)に富山大学で開催された「富山県 大学・短大・高専合同紹介フェスティバル」に参加しました。この説明会は、富山県内の高等教育機関への進学を促すため、県内7高等教育機関が連携して実施したものです。

本学の体験教室では、機械システム工学科 鈴木真由美講師による金属のふしぎ体感、知能デザイン工学科 中井講師による書き順ゲーム、環境工学科 伊藤准教授によるコンクリートの性質解説、大学院生による「エコカーの秘密」と題した講義などを用意しました。会場は、工学に興味をもった小学生など多くの来場があり大変盛況でした。

キャンパスに熱気あふれた「県大祭」

10月22日(土)・23日(日)に第22回県大祭が開催されました。

今回のテーマは「Come on Autumn, Come on Festival!」。様々な味が楽しめる模擬店、多様な参加型ゲーム、サークルの発表やコンテストなど、実行委員会が中心となって企画し、多くの学生たちが準備してきた魅力的なイベントが行われました。

また、23日(日)には「インスタントジョンソン」「360° モンキーズ」「流れ星」の3組によるお笑いライブが行われ、おいに盛り上がりました。

学生はもちろん、地域の方々や子どもたちなど大勢のご来場をいただき、後夜祭に至るまで、キャンパスは学生たちの熱気に包まれました。



とやま環境フェア2011

10月22日(土)、23日(日)の両日、富山産業展示館(テクノホール)で開催された「とやま環境フェア2011」に参加し、「環境リテラシー」を備えた技術者の育成を目指し本学が全学横断的に取り組んでいる環境教育プログラムや今年度から新たにスタートした「ひまわり大作戦」の取り組みを広く県民の皆様に紹介しました。

本学のブースには、2日間で約3,500人が訪れ、終日多数の児童、父兄等で賑わいました。特に、パソコンを利用した「環境クイズ挑戦コーナー」や小型搾油機を用いてひまわりの種から油を搾る「ひまわり搾油体験コーナー」、「ひまわり油で焼くホットケーキ試食コーナー」では、多くの来場者が楽しみながら環境に対する理解を深めました。

富山県立大学第10回FD研修会

10月24日(月)、本学において、富山県立大学第10回FD研修会を開催しました。FDとは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組のことで、例年、県大祭の翌日に研修会を開催し、原則として全教員が参加し研鑽に励んでいます。

今回は、『授業を効果的にする教育プログラム』をテーマに、午前中は、白鷲大学教育学部長 赤堀侃司氏を招き、『授業を効果的にするアイデアとその実践』について、講演を受講しました。午後は、『学生が自発的な意欲に基づいて能動的に学習を進めるための新しい教育プログラム』について、教員たちが活発に意見交換を行い、学生へのよりよい指導・教育についてともに考え、理解を深めました。



平成23年度 富山県立大学環境講演会

10月27日(木)アイザック小杉文化ホール ラポールにおいて、「富山県立大学環境講演会」を開催しました。この講演会は環境問題に対する知識や問題意識を学ぶために、環境リテラシー形成の一環として毎年実施しているもので、今年度は学内のみならず企業関係者や一般県民等、幅広く参加者を募り開催しました。

講演会では、「工業社会の未来像-資源の枯渇にどう対処するか-」をテーマとして、持続可能な産業社会にしていくため現在の枯渇型資源への依存から脱却し再生型資源に転換することの必要性等について、鳥取環境大学名誉学長 加藤

尚武 氏に図表データを示しながらご講義いただきました。当日は、本学の教職員・学生をはじめ、企業関係者、一般県民の方を含め総勢330名が熱心に講演に聞き入っていました。

富山県立大学秋季公開講座

11月5日(土)、12日(土)、19日(土)の3日間、県立大学大講義室において秋季公開講座が開催されました。

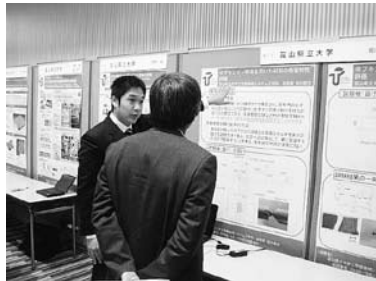
今回は、情報システム工学科の教員が講師となり、「安全・安心な社会を実現する情報通信技術」をテーマとして講演を行いました。災害や医療現場での情報通信技術の活用やインターネットセキュリティ、IT技術を駆使したシステムに関わるものまで幅広く、大変興味深い内容でした。県内各地から延べ196名が参加され、皆さん熱心に講義を聴いておられました。



とやま産学官金交流会2011

県内の企業、大学、研究機関の関係者が一堂に会し、情報交換や知識・経験の共有を図ることを目的とする「とやま産学官金交流会2011」が11月25日(金)に富山国際会議場を会場に開催されました。

当日は、基調講演、ポスターセッション、分科会が行われ、会場は多くの参加者で賑わいました。また、ポスターセッションには本学から26もの出展があり、本学の研究成果について活発な意見交換が行われました。



平成23年度 富山県立大学産学官連携環境シンポジウム

12月2日(金)富山国際会議場において、「富山県立大学産学官連携環境シンポジウム」を開催しました。このシンポジウムは、企業関係者等に環境マネジメントに対する理解を深めていただくとともに、本学が取り組んでいる環境調和型先端技術開発や環境教育等について情報発信するために開催されたものです。当日は、企業関係者や一般県民の方を含め、学内外から約170名が参加しました。

基調講演では、前田建設工業(株)執行役員 勝又 正治 氏に「環境経営への取り組み」と題して講演いただきました。また、パネルディスカッションでは、本学が取り組む「環境調和型先端技術開発研究」の概要について発表後、研究の狙いや今後の進め方について議論を交わしました。その他、基調講演とパネルディスカッションの合間には、ポスターセッションが行われ、多くの来場者が展示パネルに見入っていました。



女子高校生向け大学紹介パンフレット『工学Girl』を作成

女子の工学部への進学が少ない状況を踏まえ、工学のおもしろさを伝え、本学の魅力を発信するため、この冬、新たに女子高校生向け大学紹介パンフレット『工学Girl』を作成しました。工学を身近に感じられるように、実際に工学の分野で研究・活躍している本学の女子学生、大学院生、卒業生及び女性教員などを取材し、工学の魅力を女性の視点から紹介しています。このパンフレットは、12月に、県内高校1年生の女子生徒(約4,500名)に配布されました。



転出にあたり

岡山大学大学院自然科学研究科

松野 隆幸

私は本学知能デザイン工学科に、特任教授である福田敏男名古屋大学教授の研究室の助手として、採用された後、助教、講師となりました。採用された5年半の間には、知能デザイン工学科の立ち上げにともなったロボットコンテストの開催、学生実験の新テーマの構築や、ROMAN2009の国際会議の運営など新しい経験をさせていただきました。慣れないことばかりで周りの先生方にはご迷惑をおかけしたことを思い出します。

富山県立大学は卒業生の高い就職率をほこり、自分が学生だったころには考えられないような手厚いキャリアサポートが素晴らしいと感じました。また、富山県は工業が盛んな土

地ということもあり、県内企業との共同研究にも参加させていただき、自身の視野を広げることができたと感じております。研究教育活動においては優秀な生徒に恵まれ、また、楽しい先生方にも囲まれて、知能システム工学講座では厳しさと楽しさが両立する雰囲気ができたと自負しております。講座で開催していたダヴィンチ祭でのザリガニロボット製作教室は人気があり、PRのテレビ出演などが思い出されます。また、研究室での立山登山や、学部生とのフットサルでは学生に体力差を痛感させられました。体を鍛えている先生方に刺激を受け、自身の体力を見直す契機にもなりました。

様々な経験をさせていただいた富山県立大学を離れることは寂しい気持ちもあります。しかし、少子化社会において大学もその教員も役割が選択される中、私自身の研究テーマである「産業用ロボットの知能化」の研究に邁進すべく新たな道を選ぶこととなりました。これまで、富山県立大学で経験したことを活かして、これからも、研究教育活動と向き合っていく所存です。県立大学の先生方、事務局員の皆様、パステル工房の皆様、卒業生、在学生の皆様、お世話になりました、ありがとうございました。

研究 紹介

光るシリコン

知能デザイン工学科

講師 松本 公久

【シリコンとは】

シリコンとは半導体材料の1種で、多くの電子機器で利用されています。パソコンの演算装置であるCPU、携帯電話のマイクロプロセッサ、デジタルカメラの撮像素子であるCCDなどはシリコンでできています。近年注目を集めている太陽光発電用のソーラーパネルにも利用されています。現代社会では、シリコンを利用しないで1日過ごすことは不可能です。

【なぜシリコンが使われるのか】

半導体材料の中にはシリコンより高性能なものが多数存在しますが、なぜこれほどシリコンが多く利用されているのでしょうか。その理由は地球に埋蔵量が豊富でかつ無毒な材料であるからです。埋蔵量豊富なシリコンは、資源の枯渇の恐れが無く、安価で安定供給できます。シリコンを使うことによって、コストパフォーマンスの高い製品を製造することができるのです。また無毒であることは、廃棄した場合の環境への悪影響が少ないことを意味します。

【光らないシリコン】

このように電子機器の中で利用されているシリコンですが、発光効率が低い材料であるため、LEDペンライトなどの発光素子としては利用されていません。もしシリコンを発光素子として利用できれば、レアメタルを使わない、安価なLEDが実現できます。さらに、無毒な材料であるため、バイオマーカーや化粧品への応用も

期待できます。私たちの研究室では、発光素子や発光材料に利用できるシリコン、つまり光るシリコンの作製を目指しています。

【シリコンを光らせる】

ではどのようにすればシリコンは光るのでしょうか。シリコンは数ナノメートル（1ナノメートル=10億分の1メートル）と言う、途方もなく小さいサイズにすることによって発光を示します。この現象を専門用語で「量子サイズ効果」と呼びます。図1は私たちの研究室で実際に作製した、ポーラスシリコンと呼ばれるナノサイズのシリコンの集合体です。ブラックライト（紫外線）を当てることにより、量子サイズ効果によって赤色の発光を示しています。これらナノサイズのシリコンがどの程度強く発光するか、また何色で発光するかを調べるため、図2にある光学定盤の上でレーザー、高感度CCD、分光器などを使って実験をします。

【シリコン発光素子の実現を目指して】

このように、私たちの研究室で作製したナノサイズのシリコンは、すでに発光を示しています。しかし製品として応用するには発光効率が不足しており、さらなる改良が必要です。そのため、私たちの研究室では、日夜ナノサイズのシリコンを作製しては、その発光効率を調べ、高輝度に発光するシリコンの開発を目指しています。将来、みなさんが利用する照明器具などに、ナノサイズのシリコンが使われる日が来るかもしれません。

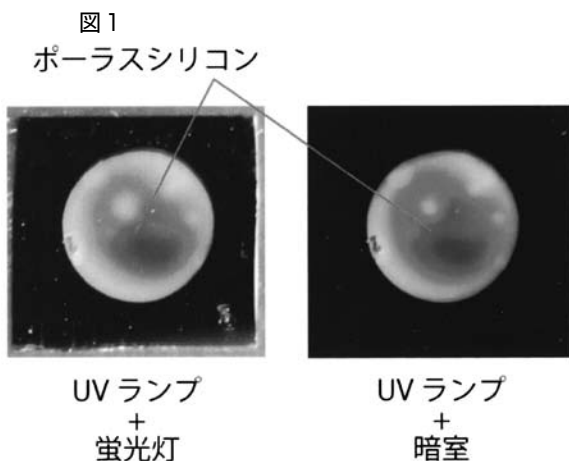


図1 ナノシリコンの1つであるポーラスシリコン。発光している円形の部分は1cmほどの大きさであるが、数ナノメートルのシリコンの集合体でできている。

図2 光学定盤に配置されたレーザー、高感度CCD、分光器など。

学生 レポート

瀋陽化工大学に留学して

環境工学科2年

金 柁 千 寛

「中国なんて」と大学に入学するまで思っていました。第二外国語をドイツ語か中国語か選ぶときも迷わずドイツ語を選択しました。そして、初めての海外に中国へ行くとは考えてもいませんでした。そんな私の考えを変えたのは、バイト先で知り合った中国人留学生でした。その留学生と交流している内に、言葉、文化に興味を持つようになりました。また、2011年から始まった瀋陽化工大学への交換留学の募集でさらに関心が高まりました。

瀋陽化工大学では初級中国語と中国事情を学びました。毎日朝8時から15時くらいまで授業で大変でしたが、その分遊んで、食べて、本当に一日一日が充実していました。授業がない日には市内観光、買い物へ行きました。また、授業の一環として行った企業見学は貴重な体験となりました。



交流の面では、私たちが行った9月はちょうど中秋節と言って日本で言う十五夜のようなものがあり、その日に瀋陽化工大学の学生がパーティーを開いてくれました。そこで一緒にゲームをしたり歌ったり、瀋陽化工大学の学生と交流を深める良い機会となりました。どの学生も本当にフレンドリーで相手から積極的に話しかけてきてくれるのですぐに仲良くなることができました。

中国の大学一年生は、一ヶ月の間、軍の行進練習をします。ある日、その一年生が着ていた迷彩の服がどうし

ても着てみたくて頼んでみたら、快く貸してくれておまけに一緒に写真まで撮ってくれたことがありました。そんなエピソードもあり、中国の学生は友好的だということが印象に残っています。

そうした交流の中で、中国語で話しかけてみるのですが伝わらないといったことがよくあったので、中国語を話すことに臆病になっていました。しかし、「伝わらなかつたら紙に書けばいいや」と割り切り、積極的に話しかけました。そうしている内に中国語を話すことに抵抗はなくなりました。逆に、話す時の緊張感が癖になりました。

一ヶ月間の留学でしたが、あっという間に過ぎました。中国で出会った人、匂い、雰囲気は私の記憶に鮮明に残っていて、留学が終わった今でもよく思い出します。私が見た中国は、環境、マナーの面では納得できないところはありますが、主要都市の道路は車であふれ、高いビルが立ち並び、ひしひしと発展を感じました。一方で、歴史的建造物も残る魅力あるところでした。私が見たのは中国のほんの一部に過ぎません。広い中国にはたくさんの魅力があるはずですが、私はそんな中国をもっと見たいと思っています。世界にはたくさんの国がありますが、そのなかで、もっとも興味があるのは「中国なんだ」そう思っています。最後に、今回の留学でお世話になった方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



本学学生が漫画雑誌で入賞

情報システム工学科4年 小神 拓也さんが描いた漫画が、漫画雑誌で入賞しました。
【本人からのコメント】

僕は絵を描くことが好きで、時間があれば絵を描いていました。主人公が漫画家になるというある漫画を読んだことがきっかけで、漫画を描き始めました。30ページほどの漫画を一人で描くには大体1~2か月要します。1か月ほどかけて初めて描いた漫画を出版社に持ち込んだところ、結果はひどいものでしたが、漫画に打ち込んだその1か月はとても充実していました。

自分の漫画が評価されないということで辛い面もありましたが、ついに3度目の持ち込みで賞をとることができ、描くことの楽しさを実感し、とても嬉しかったです。これからも、楽しく描き続けたいと思います。



小神さんが描いたイラスト

富山県立大学県民開放授業

「オープン・ユニバーシティ」

～平成24年度前期受講生募集～

INFORMATION

本学では、地域の皆さんに正規の授業を公開する県民開放授業(オープン・ユニバーシティ)を実施しています。4月から開始する前期授業においても、教養教育科目、機械・電子系専門科目、バイオテクノロジーや環境工学に関する専門科目など約100科目のバラエティに富んだ授業を公開します。

公開科目の中からニーズにあった講義を選んでいただくため、実際の授業を試聴いただいた上で受講科目を決定することができます。皆様のお申込みをお待ちしています。

開講予定科目 一般教養科目から各種専門科目まで、バラエティに富んだ授業を公開します!

一般教養科目

社会学Ⅰ、経済学Ⅰ、芸術学Ⅰ など

工学部専門科目(機械・知能・情報・生物・環境)

工業力学、メカトロニクス概論、ソフトウェア工学、生命科学史、環境政策論など

スケジュール

募集期間 平成24年3月21日(水)～4月6日(金)

試聴期間 平成24年4月10日(火)～4月23日(月)

授業期間 平成24年4月10日(火)～8月1日(水)

受講料

1科目5,000円(複数科目の受講可)

申込方法

「受講希望調書」を地域連携センター受講生窓口にて持参、郵送、FAX又は電子メールでお申込みください。受講希望調書、科目、スケジュール等はホームページに掲載します。詳しくは下記大学ホームページにてご確認ください。(3月頃掲載予定)

<http://www.pu-toyama.ac.jp/kenmin/zenki/index.html>

○募集要項請求先・問合せ先

富山県立大学地域連携センター(受講生窓口)

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

TEL: 0766-56-0604 FAX: 0766-56-0391 E-mail: openuniv@pu-toyama.ac.jp

URL: <http://www.pu-toyama.ac.jp/kenmin/zenki/index.html>

学位記授与式

平成23年度の学位記授与式を小杉文化ホールラポールにて執り行います。

また、授与式後、本学大谷講堂にて後援会及び卒業生一同による「卒業記念・謝恩パーティー」を行います。

【授与式】

◆日時: 平成24年3月23日(金) 午前10時～

◆会場: アイザック小杉文化ホール ラポール(射水市戸破1500番地)

【卒業記念・謝恩パーティー】

◆日時: 平成24年3月23日(金) 午後0時30分(予定)～

◆会場: 本学大谷講堂

大学院環境工学専攻の開設について

県立大学では、学部・大学院を通じた6年一貫教育を目標として学部・大学院の充実を進めていますが、環境のスペシャリスト育成のため、大学院工学研究科に「環境工学専攻(博士前期課程)」を平成25年4月に開設するための準備を進めています。

環境工学専攻の開設をもって、県立大学は5学科5専攻体制となります。

入学定員は12名(収容定員24名)で、平成24年度に文部科学省に設置の届出をして、入学者選抜を実施する予定です。

SCHEDULE 平成23～24年度

		大 学 院	工 学 部	短期大学部
2/29日(水)～3/2日(金) スキー講習会	3月		8(木)一般入試(前期日程)合格発表 23(金)一般入試(後期日程)合格発表	
23日(金)学位記授与式				
5日(木)入学式	4月	5(木)～9(月)オリエンテーション 5(木)～9(月)学生定期健康診断 10(火)前期授業開始	5(木)～9(月)オリエンテーション 5(木)～9(月)学生定期健康診断 10(火)前期授業開始	
25日(金) 学生球技大会	5月			

CAMPUS NOTE

コーラス部



コーラス部は富山大学と合同で活動しています。普段は週3回、富山大もしくは県大で楽しく練習をしています。合唱をやっていると、呼吸法から発声方法など色々な部分が鍛えられるので、カラオケが上手くなったり、はっきりとした声が出るようになるので就活のときに便利…かも？

また、私たちの部では病院でのコンサートや、高校生、社会人合唱団を交えた第九の演奏会に出たりと、課外活動に積極的に参加しているのが特徴です。富山大学の人とはもちろん、北陸の大学の合唱部や社会人合唱団との交流の機会があり、いい刺激になっています。

合唱のことばかり書いてしまいましたが、もちろんサークル活動以外でもご飯を食べに行ったり遊びに行ったりと、部員同士の仲が良いのもこのサークルの特徴だったりします。歌うことが大好きだとか、大学生活をもっと楽しく過ごしてみたいという方はぜひコーラス部を覗いてみてください。

編集後記

今年の正月も2日、3日と箱根駅伝の応援をしました。

私の家は、箱根駅伝コースの鶴見中継所と戸塚中継所の間にある権太坂という急坂の近くにいます。この数十年毎年、家族そろって箱根駅伝を走る選手たちを応援してきました。毎年、見慣れた顔、新しい顔の選手たちがいくつものドラマを見せてくれます。

今年のドラマの一つは、往路・復路で完全優勝した東洋大学の選手たちです。4年生の柏原竜二君は4年間往路の山登り区間を担当し、毎年、何人もの選手をゴボウ抜きして、大学に往路の優勝をもたらしてきました。その選手も、3年生の時に走れないスランプの時期を経験していたそうです。その時チームメートは、これまで柏原に頼り切っていた、今年は自分たちが頑張るって柏原に少しでも余裕をもって走ってもらえるよう頑張ろうと誓っていたそうです。そうした仲間や地元福島の皆さんに支えられながら、最後の箱根駅伝で、自らの区間記録を破り、大学の完全優勝を導いたのです。走り終わった時のインタビューで「3年生の時のスランプで、地元福島に帰った時、地元の人達は何も言わずにそっと見守ってくれた。記録達成時の自分の苦しみは一時的ですが、福島の人達の今の苦労に比べれば何でもない」と答えていました。

6区山登りで、逆転劇で往路優勝をもたらしていた立役者は、今年は仲間の頑張り、1位でタスキを渡され、ダントツ1位で完走し、復路優勝そして完全優勝にも大きく貢献しました。

もう一つのドラマは、東京農業大学の6区の学生が体調不良で倒れそうになりながらも、完走した事です。監督は何度も本人の意志を確認していましたが、本人の意志で最後まで走りとおしました。どうしてそこまで頑張れるのか不思議です。また、その選手を沿道で応援していた人達の行動にも感銘しました。最下位で前のランナーよりも20分以上、トップからは40分以上も遅れていたのですが、沿道の人達は最後まで帰ろうとはせず、ランナーが来るまで待って、しっかりと声援を送っていました。

一途に頑張っている人には、他人を感動させる力が有るのでしょうか。私が、数十年も箱根駅伝を応援し続けているのも、この一途に頑張っている多くの若者に感動しているからです。毎年、多くの若者から感動をもらい、沢山のエネルギーをもらっています。学生の皆さんにも、是非、多くの感動をし、人を感動させる人になってもらいたい。

ひたすらに、ひたむきに、一つの事に命をかける「一途一心(いちずいっしん)」に物ごとに立ち向かって欲しいと思います。

(松本 三千人)